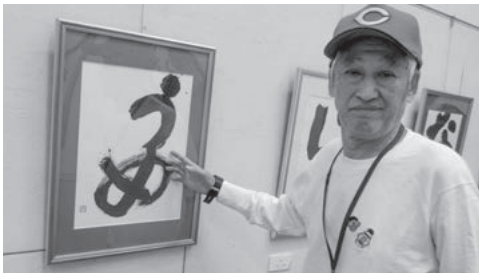
法人合同行事　ふれあい祭

法人合同行事　球技大会

柏学園　親子レクリエーション

瀬野三施設　もちつき

柏の実苑　年忘れクリスマス会


あいサポートアート展　出展作品

柏の芽

発行所
社会福祉法人
柏　学　園
広島県安芸郡府中町
青崎東7-12
TEL (082) 282-6500
発行人　米川　晃
印刷所
株式会社　中本本店
TEL (082) 221-9181

迎春

謹んで新春のお慶びを申し上げます

今年は私事ですが、六回目の年男を迎えました。自分の年齢を想うと、最近ふとした折々に、創設者であった父のことを思い出します。障害児・者への支援がまだ整っていない福祉の黎明期に、強い信念を持ち、この障害福祉事業に取組み、柏学園の基盤を造り上げてきました。昨今、多様な障害福祉、地域福祉の施策の取り組みが図られていますが、目の前の事象に捉われ過ぎている懸念を感じることが多く、ここは原点回帰して、私達は、法人理念である『障害児教育は　愛ではじまり　愛でおわる　自己の犠牲のない愛は　実らない』を胸に、本来の障害福祉の目的を明確にするところから、本年を迎えようと思います。

今年の関心事の一つに、東京二〇二五デフリンピックが、十一月十五日から二六日の間、東京体育館での開・閉会式をはじめ、都内各地域で、二一競技、七十から八十カ国・地域から選手三千人が参加・開催されます。デフリンピックとは、国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」です。本大会は、第一回が一九二四（大正十三）年にフランスのパリで開催されており、今回が百周年の記念すべき大会であり、日本で初めての開催になります。国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴な大会運営となっています。この大会の開催を契機に、国内において、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野が広げられ、「障害のある・なし」に関わらず、共にスポーツを楽しみ、互いを認め、尊重し合える共生社会の実現を願っています。

皆様のこの佳き一年が、健やかで幸せな巳年となりますようお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願いします。

令和七年　新春

社会福祉法人柏学園
理事長　米川　晃

幼児発達支援センター
柏　学　園
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

主に就学までの子どもたちが通って来ています。子どもたち一人一人の気持ちと発達段階を充分に理解し、ご家族の方々との話し合いを大切にし、親子共々希望と元気が出る療育を目指しています。

新年を迎えて

柏学園長　林　しのぶ

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様のお蔭をもちまして一年を無事終えることができましたことに深く感謝申し上げます。

例年、年の初めに思うことは、柏学園を利用されるすべてのお子様とご家族の皆様にとって、今年が良い一年になるよう、我々ができることをしっかりとやっていかなければならないということです。多くの役割を期待されている児童発達支援センターですが、地域の核として機能することを目指していくことは、勿論大切なことだと考えています。しかし、新しい事業の創設や制度改革が進む中でも、これまで我々が目指してきたこと、それは一人ひとりのお子様の育ちを支え、ご家族の皆様が我が子の育ちを温かく見守り、共に歩もうとする力を育むことができるような支援を決して忘れてはならないということです。柏学園は、お子様そしてご家族の皆様と、気持ちを共感共有できる場でありたい、かけがえのないお子様一人ひとりに合った丁寧な療育を提供できる場でありたいと思っています。そのためにも、理論や知識だけに偏らず、人と人との繋がりを感じていくことのできる豊かな人間性をもつ職員の育成と共通の目的、目標に向かって、チームとして協働していくことのできる柏学園でありたいと思っています。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

障害者生活支援事業
柏の実苑
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

19才から64才までの知的な発達に障害のある方達が、社会参加や自己実現を目指して家庭から通い、職業指導・生活援助を通して日中活動の場を提供しています。

輝き

柏の実苑長　角田　芳郎

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します。

昨秋、利用者の皆さんと「障害のある方が創作された芸術作品の展示会」を鑑賞しました。展示会では絵画や書道、造形作品などに触れ、作者それぞれの輝きや感性、創造力を実感し、良い刺激を受け元気をもらいました。また作品の見せ方ひとつを取っても、額や空間の使い方など少しの工夫で同じ作品が、より輝いていました。

私たちの日頃の利用者支援においても利用者さんが主体で、私たちはそれを支える立場。日々の活動を通してみても得意なことや苦手なこと、好きなことや嫌いなこと、それぞれあると思います。また、ある利用者さんは、将来の不安を口にする方もいます。支援者として、さらに支援にひと工夫、また違った角度から物事を捉え彼らに寄り添い、共に輝きを見つけていければと思います。

「輝きとは、華々しく立派であること」という意味もありますが、決して立派でなくてもいい、皆、それぞれの心に「輝き」という明かりが降り注げば。

柏の実苑に四十の光柱が輝きますようにと願い、支え合っていきたいと思います。

障害児居住施設
瀬野川学園
知的障害者居住施設
安芸柏の実苑
知的障害者居住施設
瀬野柏の実苑
（所在地）広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある児童や成人の居住する施設です。児童は基本的生活習慣の自立、将来の社会的自立をめざし、成人は様々な活動を通して社会参加をめざしています。また、年齢を考慮した体力維持の活動にも努めています。

向き合うことの大切さ

瀬野柏の実苑長　**竹本　孝志**

新年あけましておめでとうございます。

昨年は厳しい暑さの夏から秋を感じることなく、突然冬になったと思える気温差で、利用者、職員とも体調管理により一層気を配りながらの年明けになったのではないかと思っています。

利用者の生活を支えていく仕事をしている私達支援者にとって、いつも考えさせられることがあります。それは対人関係構築の難しさです。特に障害のある方たちに対しては、この関係性を築いていくことに多くの難しさを感じます。

対人関係には三つのパターンがあると聞きます。肯定的、否定的、中立的だと言われていますが、もっとわかりやすく言えば、肯定的な関係を「認める、褒める」否定的な関係を「拒否する、怒る」中立的な関係を「関わらない、観察」というようになるのではと思います。

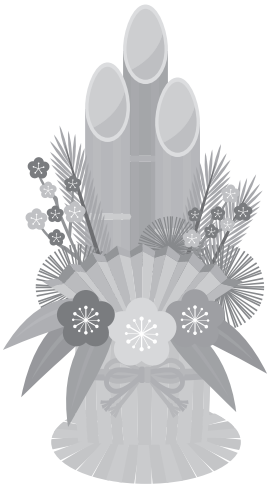
人は認められる、褒められるようなことが難しい時、対人的な手応えを得ようとしてネガティブな行動を選びがちだと思います。特に障害があり、伝える事や理解する事に苦手さを持っている方々にとっては、周りの人達が困ると感じやすい大きな声を出したり走り回ったり、叩いたり抓ったりというネガティブな行動がよく見られるのではないでしょうか。このような行動は想いや気持ちを伝える手段かもしれませんし、もしかしたら表現の選択肢が少なく本人達にとっては一番簡単な方法なのかもしれません。相手に褒められる為に行動することは相手の気持ちを察したり、暗黙の了解が必要であったりとその難易度はかなり高いと思われます。この事にきちんと向き合い対応していかないと関係性は構築できず、更にネガティブな行動を繰り返してしまうことになると感じています。

また人間関係にも支配、放任、やりとりという三パターンがあると言われています。

きちんと本人の想いに向き合わないと、障害を抱える方たちの「できない姿」に出会った時「言うことを聞かせようとする」という支配、またそれが難しかったら「好きなようにしたら」という放任になることが多いのではないでしょうか。私達支援者が一番大切にしていかなくてはいけないことは「やりとり」であると思っています。しかしながら「やりとりをする」ということがまだまだ少ないように感じています。その方の苦手さに配慮し、それぞれに合ったやりとりの方法を考えていく、これが関係性構築の一歩であると考えています。

年頭を期に初心に返り、今年一年新たな気持ちで頑張っていきたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。



障害者生活支援事業
安芸柏の実苑通所部
（所在地）
東広島市志和町大字志和堀字下十日市山337
TEL(0824)33-5690

知的な発達に障害があり、主にグループホームなどで地域生活をしている20名に、日中活動の場を提供しています。「志和福祉ランド」（東広島市）において、農耕・軽作業・洗濯などの活動を通して、社会参加や自己実現をめざしています。

「ありがとう」は魔法の言葉

安芸柏の実苑通所部　管理者　**中島　むつみ**

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

私が念頭においていることは、感謝の気持ちを持つことです。「ありがとう」この言葉は、人との距離を近くしてくれる、人生を幸せにする言葉、心が温まる言葉だと感じています。感謝の気持ちを持つことを忘れてはいけない、それは大切な気持ちだと私に気付かせてくれた出来事がありました。

三年前のコロナ禍で行き詰まることがあり、私の心が疲弊しそうになった時がありました。そんな時、利用者の支援にあたった際、その方が「ありがとう」と言ってくれたのです。まるで魔法に掛かったかのような、その一言で前向きな気持ちとなり、思わず涙したことを今でも覚えています。「ありがとう」の一言が私の心を救ってくれたのです。その時から、私も利用者・職員の方、周りの人に対し、感謝の気持ちを持つだけでなく言葉で伝えるようになりました。感謝の気持ちを示してくれる相手とは、「一緒にいたい」「良い雰囲気になる」「ポジティブになれる」など、良好な人間関係が作れます。

「ありがとう」と言われて嫌な気持ちになる人はいません。お互い笑顔になり、何かあったら力になりたいと思うものです。

何事にも当たり前と思わず、これからも感謝の気持ちを大切にし、「ありがとう」を言葉にしていきます。

地域支援事業

自立した生活とは

瀬野川学園相談支援事業所　相談支援専門員　**次郎垣内　友成**

新年明けましておめでとうございます。新しい年が、利用者さん一人ひとりにとって健康で、笑顔の多い生活が送れるようにこれからもたくさんのかかわりを作っていこうと思っています。

年が明けると、新しいことへの挑戦の準備期間になります。小学校入学、中学校、高等学校への進学、社会人としての第一歩、転職、など選択をする場面があります。ここ数年「親亡き後」という言葉があります。親亡き後の暮らしに困らないために、若い時から親から離れてグループホームでの生活をすることや入所施設で暮らす事を求められているように感じます。大切なのは本人の思いを汲み取りながらどう選択するかだと思います。今まで通り家庭で親と暮らしながら家庭内での自立を考えてみる事もよいのではないかと考えています。

家庭で本人が自分でできる事を一つでも増やしておくこと、料理、掃除、洗濯、片付けなど、お手伝いとしてではなく、本人が家族の一員としての役割を担ってもらってはいかがですか。保護者はやってくれて当たり前という意識を持たずに、思いやりのある気持ちを常にもっていることも忘れずに！将来の生活で役立つと思います。

一般的に「自立」というのは、一人で社会生活ができることをイメージしますが、福祉の分野で「自立した生活」とは、「自立＝一人でできる」ではなく、福祉サービスを活用して援助を受けながらも主体的に生きること、その人生において自ら決定することを最大限尊重されることだと思います。一人ひとり、思いは違います。どんなことをやりたいのか、どんな暮らしがしたいのか、できるのか、個々に合った選択肢をこれからも本人、家族さんと一緒に考えていけたらと思いながら、今日も訪問に出掛けています。

親子レクを通して

柏学園　大廻　正道

柏学園では十一月八日（金）に親子レクリエーションが開催されました。

コロナ禍を経て、実に四年振りに保護者の方と一緒に行う事が出来ました。皆で楽しい時間にしようと準備、打合せを重ねました。天候にも恵まれ、当日は絶好の運動会日和となりました。親子で一緒にしゃがんだり、ジャンプしたり、踊ったりしたリトミック、保護者の方をめがけて走るかけっこ、大好きなお父さん、お母さんに抱っこしてもらった玉入れ。保護者の方もお子さん達も自然に笑顔になれる時間でした。

僕の担当はかけっこの後の休憩時間に行うパフォーマンスでした。柏学園のお子さん達が大好きな歌「おまめ戦隊ビビンビーン」を振り付き、衣装付きで四人で踊るものでした。練習を重ねましたが、振付がなかなか覚えられず、若い他のメンバーの足を引っ張る存在でしかありませんでした。が、途中で気が付いたのです！「上手く踊ろう」「みんなと同じようにやろう」と焦っていた自分に…。その頃から出来ない自分を受け入れ、自分のキャラクターで踊れるようになってきました。すると、自然に他のメンバーとの踊りにも馴染め、上手く立ち回れるようになった気がします。

当日、衣装に着替え終わると絶妙な緊張感が全身を覆い尽くし「あー始まるんだ」と、感じました。皆さんの前に出ると何故かその緊張感も吹っ飛び「さぁ行こう！」と何かのスイッチが入ったような気がしました。アンコールも全て踊り終えたのに、「まだ帰りたくない」と頼まれてもいないアドリブ心が疼いていました。楽しかったんです！　皆さんの笑顔と拍手で我に返ると、とても充実した気持ちになりました。

このパフォーマンスに対する反応もそうですが、かけっこ等、どのお子さんにも応援を惜しまない保護者の方の多さに驚きました。皆さんの温かい眼差しや、熱狂する楽しさを存分に楽しんでおられる姿が、見ていてとても嬉しくなりました。この先も、こうした時間が、ここ柏学園という大きな家族のような場所で繰り返されていくと思うと、ワクワクが止まりません。そしてこの大きな家族の一員であったと言う事実が「記憶」という枠を超えて僕の中に存在し続けるでしょう！

令和六年度法人球技大会

柏の実苑　髙本　聖也

今年度は十一月七日（木）にWACTORYパーク揚倉山にて法人球技大会が開催されました。当日は風が強く少し肌寒いものの、気持ちの良い秋晴れでした。利用者の方は事前に色々な競技の練習を行って準備をしていたので、この日を心待ちにしており、みなさん良い表情で参加されていました。

競技は、ティーボール・ボウリング・グラウンドゴルフ・フライングディスクの四種類の中から一つを選択し、午前の部と午後の部それぞれに参加しました。

ティーボールでは終始元気な声が響き、バットを使って上手に打ったり、ボールを追いかけてキャッチしたりと盛り上がっていました。団体競技なので、難しい面もありましたが、互いに声を掛け合いながら一生懸命に取り組む姿が印象的でした。ボウリングでは強風でピンが何度も倒れてしまうハプニングにも笑いが起こり、楽しい雰囲気の中で進められていました。グラウンドゴルフではホールポストにボールが入る度に歓声が起こっていました。色々なコースを回ったこともよい運動になったようです。フライングディスクでは強風の影響でディスクが風に流されてしまうことがありましたが、みなさんそれぞれのタイミングを計りながら真剣な表情で一投ずつ投げる様子が見られました。

競技によって、施設対抗のもの、個人対抗のものがあり、みなさん「勝つぞ！」「頑張ろう！」と気合いを入れて取り組まれていました。最後には表彰式が行われ、表彰された方はみなさんから拍手を貰い、少し照れくさそうな様子でした。それぞれ勝敗がありましたが、勝ち負けに関わらず、楽しまれている様子で、気持ちよく伸び伸びと身体を動かしたり、声援や励ましの言葉を掛け合ったりと充実した時間が過ごせていたように思います。

午前の部、午後の部の間にはブルーシートを広げ、みんなでお弁当を頂いたことも楽しかったようで、職員や利用者の方とそれぞれ会話を弾ませていました。

各施設を超えて沢山の方と関わり合いながら〝スポーツの秋〟を満喫した利用者の方々。これからも楽しく運動に取り組めるよう、普段の活動内容も工夫したいと思います。

年忘れクリスマス会

柏の実苑　川崎　肇

令和六年十二月十四日に『年忘れクリスマス会』を安芸区民文化センターで行いました。広島東南ロータリークラブ（ＲＩエコー）の皆様、広島県立広島商業高等学校インターアクトクラブの皆様をお招きし、利用者含めて約七十名の参加でした。テーブルではお客様に言葉を掛けていただき、苑の様子、何の作業をしているのかなど聞かれ、作業のやり方や行事のことを話し、各テーブルとても盛り上がっていました。今年度の柏の実苑の出し物はサークル合同で行いました。利用者のキーボード演奏で「小さな世界」「ジングルベル」を歌い、ダンスでは「ひょっこりひょうたん島」を披露しました。発表するまでドキドキだった様子でしたが日頃の練習の成果を発揮することが出来ました。終わった後「よかったよ」「上手だね」「いつから練習したの」など温かい言葉を掛けて頂きました。また利用者の方は広島商業高校インターアクトクラブの方々のハンドベルの美しい音色に耳を傾け、拍手をし、喜ばれていました。ＲＩエコーの方々も年忘れクリスマス会に向けて集まり合唱の練習をしていることをお話ししてくださいました。毎年、利用者の皆さんも合唱のプレゼントをとても楽しみにされています。今年もクリスマスの曲を含め数曲歌っていただき、毎年楽しみにされるアンコールで「三百六十五歩のマーチ」「それいけカープ」をＲＩエコーの方々と一緒に前に出て歌い、利用者の笑顔と元気な歌声を今年も聞くことが出来ました。とても楽しかったようで席に戻っても笑顔と興奮はおさまらない様子でした。今年も皆様との交流を通して体験した事で利用者の方も思い思いの形で楽しまれた様子でした。来年は、どんな形でどんな姿を見せていただけるか今から楽しみです。

ふれあい祭

瀬野柏の実苑　沖　昌紀

十月十二日にご来賓を迎え、盛大にふれあい祭が行われました。当日は天気がとても良く、絶好のふれあい祭日和でした。開会式が終わると、柏の実苑の利用者の皆さんの演奏がありました。リハーサルでは少し緊張されていたようでしたが、本番になると堂々とした演奏を披露されていました。各展示場は利用者の皆さんの魂のこもった作品ばかりで圧倒されました。見ている私が元気をもらったような気がします。園庭ではステージでの出し物があったり、ゲームコーナーがあり皆さん楽しんでおられました。

さて当日私はカラオケを担当させて頂きました。そこでの感想を書かせて頂きます。

今回出演された利用者は自ら立候補した方達で、出演者皆さんとても上手に歌われていました。また今回は仮装しての出演という事もあり、なお一層舞台が華やかに感じました。普段かつらやレイなどを嫌がってしないと思われる方までされていてびっくりしました。知っている歌が掛かると、観客席で応援されていた利用者の方々は自然にステージの周りに集まり、踊り始めました。とても楽しそうで皆さんノリノリでした。歌っている本人もより気合が入っているように見えました。歌い終えたところで、「今日は上手く歌えた？」とか「緊張した？」などインタビューさせて頂きました。皆さん快く答えて頂きました。また審査委員の方々や観客席におられる保護者の方にも感想を聞いて回りました。「今の歌を聞かれてどうですか？」と聞くと、「カラオケを歌うのは初めて聴きましたが、上手でした」と笑顔で答えて下さりました。その時出演者は恥ずかしそうに手を振って応えておられたのが印象的でした。

その後全員園庭に集まり、瀬野川ファミリーバンドの演奏を聴きました。日頃から一生懸命に練習をしているので、とても立派な演奏でした。アンコールが掛かり、皆さん大合唱で大いに盛り上がりました。

これからも利用者の皆さんが楽しんで頂けるように準備していきたいと思います。

待ちに待ったあいサポートアート展

瀬野柏の実苑　藤田　嘉子

「みなさーん、今年もあいサポートアート展に向けて作品作りをしますよ！」から始まった作品作り。月一度の習字活動・絵画活動の中で作成していきました。

習字活動は講師に来苑してもらい、講師が書いた見本の中から「私はこれを書く！」と、書きたいものを選んでもらいました。半紙を丸めた後に伸ばし、皺が出来たところに書くなど、いろいろな表情が出るよう工夫していきました。講師からも「力強く！」や「ぐーっと伸ばしてー」などと助言をもらい、力強い筆さばきで実施しました。

絵画活動は、職員のアイデアをもとに、手形や野菜など身近なものを使用して絵を描くなど、それぞれ好きな物を描いてもらいました。一人ひとりの個性が出ており、描いた後には、「今日はドーナツ描いたよ」などと嬉しそうに見せてくれていました。

今年はあいサポートアート展に習字を十五作品、絵画を十作品応募し、習字十三点、絵画二点が入選し、広島市と福山の美術館に展示されました。今年は初めて絵画の作品を応募しました。月一度活動している為、皆さんお手の物。応募することへの緊張もなく伸び伸びと作成していきました。

作品を出展した利用者の方と一緒に、広島県立美術館に見学に行きました。自分以外の作品も沢山あり、じっくり見ながら「これかわいいねー。すごいねー」と言いながら一つひとつ見ていると「来年は何を書こうかなー」などと来年に向けての意気込みを伝えてくれる方もいました。いざ自分の作品の前に行くと嬉しそうに「あ、あったー。見て！これ私が書いたんよ」と嬉しそうに教えてくれました。自分の作品の前でハイチーズ！と写真を撮り思い出を残しました。「先生、この写真お母さんに送ってね」と笑顔で言われた時は、私も嬉しくなり「そうだね。送ろうね」と伝え合いました。

このように飾られることでより作品を作る意欲に繋がっていくのだと感じました。次は、「第二十六回いい彩みつけたのびのび展」があり、それに向けて十月から作品作りに取り掛かっています。今年度は二月四日～九日までＮＨＫギャラリーにて習字・絵画の作品が展示される予定になっています。ぜひ、みなさんの力強い作品を見に来てください。

もちつき

瀬野柏の実苑　宮原　玲子

「よいしょ！よいしょ！」十二月十四日の青空の下、元気な声が響きました。寒さも一段と厳しい日となりましたが、二〇二四年も残すところ二週間余りとなり、今年を締めくくるもちつきが開催されました。

今年は、久しぶりの保護者の方々を迎えての開催となりました。たくさんの人数で臼を囲むと一段と華やかになり皆さんの表情も明るくなったように感じました。

苑長の挨拶を皮切りにもちつきスタートです。司会進行は自治会長さんと職員がつとめます。「もちつきの由来、わかりますか？」と職員から質問が投げられました。ふと見るとベンチの利用者さんの中に、赤、黄、紫のちゃんちゃんこを着られた瀬野キャンパスの年長者さんが座られています。年齢は九十一歳、八十八歳、七十八歳です。マイクはその方たちに向けられます。にっこり微笑まれるお三方・・・。そこで、質問に答えたのが、自治会副会長さん。しっかりした口調で「私が答えましょう！」と由来についての説明文を読み上げられました。

さあ、もちつき開始です。一番に臼を囲んだのは先ほどの年長者さん三人です。年齢を感じさせない力強い姿に胸が熱くなりました。ここからは各園順番に餅をつきます。「よいしょ！」の掛け声とともに杵を振り下ろします。二人向かい合って交代しながらもちつきをします。利用者さん同士、またご家族が来られている方はご両親やご兄弟と、車椅子の方も職員が手を添えて、みんなで力を合わせてがんばります。全員がつき終わるころにはきれいなツヤツヤのもちが完成です。

もちつきで体もホカホカしてきたところで、皆さんお待ちかねのぜんざいの登場です。甘いあんこの中にふんわりもちが入っています。参加してくださった保護者の方々も利用者さんと一緒に談笑しながら食べられていました。

日本の伝統行事のもちつきを、今年はたくさんの方々と行う事ができました。グラウンドににぎやかな声が響く中、みんなで一つのことをする楽しさを久しぶりに実感しました。

二〇二五年を迎える準備が整いました！

令和六年度　全国等表彰受賞者

身体障害者等更生援護功労者等知事表彰
柏の実苑　竹元　章治
柏学園　林　しのぶ
瀬野柏の実苑　古久保仁史

広島市心身障害者関係更生援護功労者等表彰
瀬野柏の実苑　沖　昌紀
瀬野柏の実苑　大園　隆史

日本知的障害者福祉事業功労者表彰
柏学園　砂盛恵理子
柏学園　白井　賢
瀬野川学園　渡邊　智栄

広島県社会福祉協議会会長表彰
安芸柏の実苑　田中　優子
柏の実苑　新潟　直喜
柏学園　白井　賢

府中町社会福祉功労者表彰
柏の実苑　新潟　直喜
柏学園　砂盛恵理子

今思うこと

絵を通して

柏学園　渡邊　亮祐

私は絵を描くことが好きです。療育の中では、お子さんたちと一緒にホワイトボードに絵を描いたり、集いの時間に絵描き歌をしたり、絵を通して関わる場面がいくつかあります。特に絵描き歌はお子さんの注目が集まり、ホワイトボードの前に立って見たり、絵描き歌を一緒に歌ったり、お気に入りの絵描き歌が始まると飛び跳ねて喜んだりなど、お子さんの様々な反応が見られます。普段クラスの端で過ごすことの多いお子さんでもひょこっと顔を覗かせ少しずつ近づいて来てくれると、絵の引力ってすごいな、と実感します。お子さんたちの前で絵描き歌をする中で、基本通りに描くことも大切ですが、時々目や眉、口を少しだけ変えることでキャラクターに表情が加わり、お子さんがそれを見てリアクションをくれたり、別の表情も描いて欲しいとリクエストをくれたりすることもあります。そうやってお子さんたちが絵描き歌を楽しむ姿を見ると嬉しく、絵を描くことが好きで良かったと思います。今後も絵を通してお子さんと関わりながら、今ある絵描き歌だけではなく新しい絵描き歌も探して楽しい時間を作っていきたいと思います。

ご協力いただいた関係団体

府中町　町長　寺尾　光司様
府中町町議会
議長　力山　彰様
府中町教育委員会
教育長　新田　憲章様
府中町社会福祉協議会
会長　室野　拓男様
府中町青崎東女性会
会長　栗栖　孝子様
蔵田ファイリング㈱
代表取締役社長　田戸　亨様
宗盛　幸江様
大門　清春様
米川　晃様

編集後記

新しい年を迎え、新たな思いを胸に頑張っていきたいと思っております。本年も、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。